

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4093000042		
法人名	医療法人 せいわ会		
事業所名	グループホーム おもやい		
所在地 (電話番号)	福岡県筑紫野市大字西小田991番地の1 (電話) 092-919-7371		
評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成21年10月22日	評価確定日	平成21年11月26日

【情報提供票より】(H21年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 13人, 非常勤 4人, 常勤換算	15人

(2) 建物概要

建物形態	(併設) / 単独	(新築) / 改築
建物構造	鉄骨 造り	
	平屋 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有 (円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,300 円		

(4) 利用者の概要 (10月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.6 歳	最低	77 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	聖和記念病院 蒲池歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

西鉄の駅から徒歩3分と、交通の便に恵まれていながらも、ホームの向こう側には田園風景が一面に広がるという静かな環境に立地している。1ユニットからスタートし、開設2年目のこの秋から2ユニット目が稼働しはじめるという新しいホームである利点を活かし、職員の日常生活での気付きを出しあいながら、庭に通じるウッドデッキやスロープを作ったり、畳の部屋に掘りごたつを設置するなど、ハード面にもそれぞれの意見を反映させている。ホーム名となっている「おもやい」とは、九州の方言で1つのものを共有しあうこと、お互いに協力しあって生活することを意味するとのことであったが、その名前の通り、グループホームという家をみんなで共有し、助け合いながら職員・入居者が家族のように楽しく生活している様子をまさに表わしていると感じる事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で挙げられた課題については全員で話し合い、できることから迅速に対応している。特に、権利擁護に関する制度に対して全職員が理解を深めるよう研修に取り組んだ点、ケアプランをご家族に確認していただく際に日付も記入するよう書式を変更した点は評価終了後迅速に取り組んだ様子が伺える。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各職員に自己評価を記入してもらい、管理者がまとめたものを全員で確認するという作業を通じて、日頃のケアの振り返りを行い、新たな気付きへとつながっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	市の担当者、地域包括支援センター職員、地元の区長、民生委員、家族代表、入居者代表をメンバーとして2ヶ月に1回定期的に開催している。ホームの現状報告を始め、2ユニット目がオープンするに当たって家族から意見が出されたり、地域のイベント情報を教えていただいたりするなど、充実した内容となっている。議事録も丁寧にまとめられている。今後は避難訓練についても地域の支援を呼びかけるなど、会議のさらなる活用に期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	日頃から意見を言いやすい環境づくりに努めており、直接職員へ伝えられることがほとんどであるが、重要事項説明書に相談窓口を数箇所挙げたり、事業所の玄関に「よろず相談箱」を設置したりしており、外部にも意見を表せる機会を設けている。意見として挙げた内容は、職員会議にかけて話し合い、迅速な対応を心がけている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩やゴミ拾いの途中で、近隣の方と日頃から挨拶を交わしていることもあり、ホーム玄関のベンチで休んでいられる方もでてきた。また、地域の夏祭りに参加したり、フリーマーケットに出店し、入居者の方に手伝ってもらったりしている。中学校や専門学校からの職場体験や実習生を受け入れた際には、入居者の方も孫のような世代との交流を楽しんでおられた。ホームとして日頃から地元の人々との交流に努めている様子が伺える。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の方に、住み慣れた地域の中で「いきいき・のびのび・自分らしく」生活してもらいたいという思いを込めて、事業所の立ち上げに関わったメンバーで考えたホーム独自の理念を掲げている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの玄関や各職員の名札の裏など、よく目に付く場所に理念を掲げ、いつでも確認できるようにしている。また、何か課題が見つかったときは理念に立ち戻り、自分たちが目標とするケアの有り方を再確認することでより入居者本位の改善策を見出すことにつながっている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩やゴミ拾いの途中で、近隣の方と日頃から挨拶を交わしている。また、地域の夏祭りに参加したり、フリーマーケットに出店し、入居者の方に手伝ってもらったりしている。中学校や専門学校からの職場体験や実習生の受け入れも行っており、積極的に地元の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各職員に自己評価を記入してもらい、管理者がまとめたものを全員で確認するという作業を通じて、日頃のケアの振り返りを行っている。また、昨年の調査で期待したい項目として挙げられた事案について、改善に向けて全員で話し合い、できることから迅速に対応している。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の担当者、地域包括支援センター職員、地域の区長、民生委員、家族代表、入居者代表、をメンバーとして2ヶ月に1回定期的に開催している。ホームの現状報告を始め、2ユニット目がオープンするに当たって家族から意見が出されたり、地域のイベント情報を教えていただいたりするなど、充実した内容となっている。議事録も丁寧にまとめられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当窓口に出向いたり、わからないことがあれば電話で確認するなどしており、市との連携はとれている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する資料を揃え、計画的に研修を行っている。現在制度を必要としている入居者はいないが、職員全員が概要を説明できる状態にある。パンフレットも取り寄せようとしたが、最初に問い合わせたところで扱っておらず、どこから取り寄せることができるのか不明だったこともあり、まだ設置していない。		市の社会福祉協議会やリーガルサポート福岡からパンフレットを取り寄せ、必要な方がいればいつでも説明できる体制を整えておくことが望まれる。また、2ユニット目がオープンするにあたり、新しい職員が入ってくる予定とのことなので、今後も研修を重ね、全員の理解を深めていくことが期待される。
4. 理念を实践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に、入居者の日頃の様子を写真に撮ってアルバムにしたものを見せたり、口頭で報告したりしている。職員の異動等があった際にも来訪時に伝えている。また、「ハーモニーだより」を併設事業所と協同で発行している。金銭管理については出納を記録したものをご家族に見せ、確認のサインをいただいている。		今後、グループホーム独自の「たより」を発行する予定とのことである。日々の言動やしぐさも細かく記録に残し、さらに毎日の生き生きとした様子を写真に収めているので、なかなか来られない家族へも様子が伝わりやすく、充実した内容の個人別の「たより」が作られることが期待される。また、口頭で報告した記録についても日誌等に残しておくことが望まれる。
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から意見を言いやすい環境づくりに努めており、直接職員へ伝えられることがほとんどであるが、重要事項説明書に相談窓口を数箇所挙げたり、事業所の玄関に「よろず相談箱」を設置したりもしており、外部にも意見を表せる機会を設けている。意見として挙がった内容は、職員会議にかけて話し合い、迅速な対応を心がけている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はできるだけしないようにしている。退職等の場合は引継ぎ期間を1ヶ月程設けたり、ユニット間を越えて全職員が顔なじみの関係を作っておくなど、入居者のダメージを防ぐ配慮をしている。また、離職を防ぐために日頃から職員の休みの希望を汲んでシフトを作成し、夏季・冬季休暇も設けるなど工夫をしている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	法人での採用であるが管理者も面接に加わり、入居者をいかに大切にできる人であるかを重視して採用を決めており、性別や年齢によって採用対象から外すことはない。職員の特技を生かした場面作りをするなど、全員が生き生きと働いており、意見を上司に忌憚無く伝えられる雰囲気がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人の研修に参加したり、ホーム内の会議でも議題として取り上げて学んでいる。欠席者に資料を渡して勉強してもらったり、ビデオ学習を取り入れるなど、実際に参加できなかった職員に対しても配慮している。		
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が希望する研修、また、適する人材として派遣される研修等、積極的に参加しており、計画的に職員育成を進めている。また、内部研修も年間計画をたてて様々な内容の研修が行われているが、記録がまとめられていない。		計画に沿った研修が行われているので、次年度の参考にするためにも研修の題目・日時・参加者・内容等を分かりやすく一覧にし、使った資料をファイルして研修記録をまとめる取り組みが期待される。
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員同士が研修で知り合いになり、他のグループホームの見学に行き来するなど、自発的に同業者と交流している。市の境目に立地していることもあって、小都市のグループホームと交流があり、夏祭りに参加したり、ダンスを教えに来てもらうなどしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設の老健やデイサービスから入居になる方、ご自宅から入居になる方等様々であるが、体験入居をしてもらったり、短時間でもお茶を飲みに来ていただくなどして、徐々にホームに馴染んでいただけるよう工夫している。なるべく来訪の回数を重ねてもらい、ご本人が納得した上での入居となるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は、食事の準備や洗濯、草取り等、出来る範囲で役割を持っている。また、職員も、畑作りの事、野菜の切り方、手芸など、生活全般にわたって教えてもらうことがあると感じており、お互いが助け合って生活する家族のような関係を築いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を直接お聞きしたり、意思の表出が困難な方には日々の言動やしぐさを細かく記録し、ご家族からアドバイスをいただいたりして、本人の立場にたった意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を利用して、アセスメントに思いや意向を詳しく記入している。また、職員や家族、かかりつけ医から情報を得ながら担当職員が作成、ケアマネにチェックしてもらい手順をとって介護計画を作成している。アセスメントには詳しく要望や思いが書かれているが、ケアプランにはその内容の転記が少ない。		ケアプランを見ただけで、本人に必要な計画と、なぜその計画が立てられたのかという動機づけがすぐ確認できるといことが大切である。詳しくとったアセスメントを活かして、さらに内容の充実したケアプランが作成されることが望まれる。
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回モニタリングを行い、定期的にケアプランの見直しを行っている。また、状態の変化があった場合には現状に即した計画を作成している。新たなケアプランを作成したときは、ご家族にも確認してもらい、サインをいただいている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や買物など、その時々に入居者が希望することを出来るだけ叶えようと、職員は工夫しながら支援している。また、ご家族の希望があればホームへの宿泊にも対応する準備をしており、多機能性を活かした柔軟な支援に取り組んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の医療機関をかかりつけ医としている方がほとんどであり、通院も生活の一部と考えて職員が支援している。担当医に入居者の状況をよく理解してもらっており、適切な受診が可能である。受診後は、ご家族にも電話で結果を伝えるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した場合の指針を作成し、入居時に説明している。本人やご家族の希望を尊重する姿勢であるが、現在重度化している入居者はおらず、看取りの経験はまだない。</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
23	52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>言葉かけには日頃から注意を払っており、職員の気になる言動に気付いたときには会議等でその都度話を行って改善している。個人記録については事務所の鍵のかかる棚に保管しており、家族からも個人情報に関する同意書を取るなどして、厳重に取り扱っている。</p>		
24	54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者の起きる時間に合わせて朝食を提供したり、晩酌が好きな方にはお酒を買いに行くのを介助したりと、今までの生活をそのまま継続した、その人らしい暮らしを支援している。天気がよければ散歩に出るなど、その日をどのように過ごしたいか希望を聞きながら支援に当たっている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
25	56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>副食は併設施設から運ばれてくるが、ごはん汁物はホームで準備している。週に1回は自炊の日を設け、入居者の食べたい物のリクエストを取ってみんなで協力しながら食事作りをしている。準備、配膳、後片付けなど、出来ることをそれぞれが無理なく手伝い、和気藹々とした雰囲気を楽しんでいる。</p>		
26	59	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入居者の希望に応じて、日中は毎日入浴ができる。介助の必要がなく、見守りだけで入浴できる方には夜も楽しんでもらえるように支援している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	手芸、食事の準備、洗濯物たたみ、畑の草取りなど、本人の力を活かした役割を担っていただくことで、張り合いのある生活を送っている様子が伺える。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買物など、日常的に外出しているほか、週に1回はドライブに出かけて季節の花を楽しんだり、お弁当を持って行き外で食べたりしている。また、「自宅に帰りたい」という希望には家族と連携して臨機応変に対応するように努力している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は施錠しておらず、チャイムで人の出入りを確認するようにしている。帰宅願望があって外に出て行こうとする入居者には、一緒に近くを回ってホームに帰ってきたり、万が一のときのために道路沿いに住んでいる方や併設施設の職員等に見かけたら連絡をいただけるようお願いもしている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の立会いも含め、年に2回は避難訓練を実施しており、職員もしっかり避難場所を把握している。夜間想定や救急救命の研修など、様々な場面に対応できるように取り組んでいる。スプリンクラーも設置済みである。近隣に民家が無いため、地域からの参加の呼びかけはまだであり、併設施設との連携に力を入れている。		すぐ近くに民家がないため、隣の併設施設との連携で初期避難に当たるとい取り組みも妥当ではあるが、全てを職員だけで対応するのはやはり困難である。まずは運営推進会議の中で避難訓練への参加を呼びかけ、何かあったら手助けしてもらえるように、近隣住民にも日頃から声をかけ続ける取り組みに期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量ともに一人ひとり記録に取り、摂取量を把握している。噛む力が弱くなっている方には、細かくする前に美味しそうな盛り付けを見てもらい、様子を見ながら小さくカットしたりするなど、状態に応じた支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間などの共用空間はゆったりとした広さを取り、程よい明るさで居心地がよい。食堂と台所が対面式で、食事の美味しそうなにおいが漂ってきて食欲をそそる。もみじやすすきなどが飾られ、季節を感じながら家庭的な雰囲気の中で過ごせる工夫がある。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドと防火カーテンは備え付けであるが、それ以外は自由に持込が可能である。今まで使っていた大きなテレビを部屋に置いている方、写真を貼っている部屋など、一人ひとりが落ち着いて過ごせる居室となるように工夫している。		